

平成30年度第2回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 平成30年度第2回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 平成30年11月14日（水）午後1時から3時まで
- 3 開催場所 一関市役所 議員全員協議会室
- 4 出席者

(1) 委員

芦宏、熱海アイ子、及川忠、河合純子、小池学、小岩邦弘、佐々木承子、佐藤弘子、佐藤芳郎、菅原行奈、菅原敏、千葉泰孝、徳谷喜久子、永山克男、原田哲、松岡千賀子、水谷みさえ

欠席委員 阿部新一、小山亜希子、金野忠志、菅原勇、鈴木加代子、千田久美子、千田博、千葉修、藤野寿美、三浦幹夫

(2) 事務局

石川隆明市長公室長、佐藤正幸政策企画課長、小野寺愛人総務部財政課長
佐藤マチ子政策企画課主幹、宍戸勝幸政策企画課政策企画係長、
鈴木隆稔財政課主任主事

5 議 題

総合計画前期基本計画「主な指標」の平成29年度末時点の状況について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 1人（報道機関）
- 8 挨拶

小岩会長挨拶

12月で任期終了ということで、このメンバーでの審議会は今回で最後となる。地元にいるとなかなか気づかない地域の魅力があるので、意識して地元の宝を見つけていきたい。本日は積極的な発言をお願いしたい。

9 審議内容

総合計画前期基本計画「主な指標」の平成29年度末時点の状況について

資料No.5「総合計画前期基本計画「主な指標」の進捗概要」、資料No.6「総合計画前期基本計画「主な指標」平成29年度末実績一覧」により事務局から説明を行った。

以下、委員からの意見等。

委員 指標No.7「6次産業化事業化件数」について、実際は個々の経営の問題になると思うが、どのように支援していくのか。

事務局 商品化になった際にどのような支援を行っていくか等、要望を聞きながら行

っていくことになる。

事務局 6次産業化については、セミナーの開催等を行っているところであり、農商工連携開発事業補助として、新たな商品開発に市内の農産物を使った場合の補助を今年度から行っているところである。

委員 指標No.99「福祉教育に関する講座を実施した小中学校の割合」について、総合計画の136ページの記載があるにも関わらず、社会福祉協議会が行う部分について含まれていない。

事務局 担当課に確認し修正する。

委員 指標No.117「65歳以上の人口に占める要介護認定者の割合」について、評価欄の記載内容の意味が分からない。

委員 介護保険の仕組はどんどん市町村に委ねられてきている流れである。

委員 指標No.117の関連事業である「週イチ倶楽部応援事業」については、民間の活動に市が支援する形での取組である。

委員 指標No.117については、本来、要介護人数が減ることを目指すものであるので、要支援を含めて減ればよいという評価欄の書き方は、それと逆行しているような気がする。

委員 指標No.64「ことばの時間を設定し、ことばの学習に取り組んだ小学校の割合」について、どのような事業内容か。

委員 今年度から全小学校で10分間、テキストを使って言葉の響きに慣れ親しみ、子どもたちの感性を育てるということで行っているものである。

委員 ことばのテキスト「言海」について、学校の中でしか使われないのだが、とても良い貴重なものであるので、活動について周知していくとよいと思う。

委員 「ことばの時間」については、参観日のうち1回は、ことばの時間を含めて公開しようということにしており、学校によっては広報で紹介したり、学習発表会で発表したりしている。

事務局 担当部に伝えることとする。冊子については、低学年・中学年・高学年の3種類があり、配布方法については、担当部に確認する。

事務局 「ことばの時間」については教育委員会で力を入れており、ことばのテキスト「言海」もオリジナル本である。語彙の豊かさやコミュニケーション能力を育むということで行っており、様々なご意見を教育委員会に伝えていきたい。

委員 指標No.23「商店街空き店舗率」について、行政からの支援がある期間については何とかやっけていけるが、その後の継続が難しく経営が行き詰り、閉店せざるを得ない場合が多い。経営支援が手厚く行われないと空き店舗が増える一方

であると思う。また、土地の所有者と店舗の建物の所有者が異なる場合があり、店舗の所有者が経営に行き詰ったが他に貸すこともできないというケースもあるので、もっと事例を具体的に見ていく必要がある。また、大町には駐車場が少なく、中心市街地の人通りの流れが良くなる具体的な方策が必要である。また、指標No.51「空き家バンクの登録件数」について、登録件数と成約件数とは別であり、成約件数はどうなのか、実態についても触れるべきである。指標No.80「男女共同参画サポーター認定者数」について、どのように募集し、次につながる活動にしていくのかが分かるようにしてほしい。

委員 分野ごとに指標を出しているが、個々の指標について様々な分野との連携が図られれば、効果が上がると思う。

事務局 指標については、計画期間の5年間は変えることができないので、次の後期計画を策定する際に、ご意見やご指摘のあった視点を盛り込んで指標設定等の見直しを行っていく。また、空き家バンクについては、農地要件を緩和する等の見直しをしているところである。

委員 評価のA B C Dについて、単年度評価でないものについては、実態を表すのは難しいと思う。

委員 評価のA B C Dについて、判定は内部だけで行うものか。外部の人が入って行うものか。

事務局 評価のA B C Dについては、目標に対する現在の状況を表す計算で出た数値に対する機械的なものである。最終の目標に対しての状況ということで、各部署で自己評価としているところである。

委員 機械的な評価だけでは、難しい面があると思う。

委員 指標No.23「商店街空き店舗率」について、各店舗が独自に駐車場を確保するのは困難であり、大きな課題であると思う。商工会議所と連携して、一関の顔となる中心街のシャッターが下りている状態について解決して行ってほしい。

委員 指標No.32「外国人観光入込客数」について、かなり増えているが、受入施設が増えているのか、単に人数が増えているのか。

事務局 施設が急激に増えるということはないので、人数が増えているということと考えられる。

委員 外国人の宿泊客は前年に比べても増えているようである。DMOの活動もかなり活発化しているように感じている。

委員 先ほど話題に出た「ことばの時間」のテキスト「言海」について、学校でのみ使い、家には持ち帰れないようである。家庭学習にもよいものであるので、

ぜひ持ち帰れるようにしてほしい。

委員 指標No.52「結婚祝金交付件数」について、婚活イベントは様々あるがそこから先につながらない状況である。成婚の率を考えれば会員登録者数をもっと増やさなければならないと思う。一ノ関駅前については、バスの利便性も考えたほうがよい。また、駅の「一ノ関駅」の表示も小さいという外の方からの声も聞いている。

委員 指標No.96「水道普及率」について、達成率に実感がわからない地域もある。地域ごとの事情も理解してほしい。バスについても同様である。

事務局 水道の普及については、未普及地域の課題があり、地域懇談会等でも検討されているところである。

委員 下水道については、グループで浄化槽を整備すれば、補助があるとのことだが、高齢化により先々が心配な場合もある。最低限のインフラ整備にはお金をかけてほしい。

委員 事業所であるが、下水道につなげるために必要な料金について、補助や助成がない。また、下水道料が水道料と同じ請求であるが、金額的に水道料が2倍になると考えると、負担が大きい。下水道料について割安にならないものか。また、将来のまちづくりについては、総合的に見える予想図を作っていく必要がある。

事務局 下水道の料金については、設備を整備し、利用料金で運営していかなければならない状況ではあるが、このような機会で様々なご意見をいただきたい。

委員 指標No.44「市営バスの年間利用者数」について、75歳以上の人は年間で定額のバスチケットをもらえるが、チケットに端数が出るようなので、無駄なく使えるようにカードにする等、できないものか。また、車が運転できない人たちの生活のために交通機関の充実に取り組んでほしい。

委員 指標No.15「燃料用チップ生産量」について、チップ工場が一関にあるとよいと思う。また、指標No.57「ファミリーサポートセンター利用者数」について、登録者はいるが利用者が少ないということで、知らないという人に向けて広報や周知方法を考えてほしい。

委員 ポスターを作成し、周知活動を行っているところである。様々な機会にうまく使われるようにしていきたい。

事務局 今日がこのメンバーでの最後の審議会となるが、会長をはじめ委員の方々には大変お世話になりました。前期計画が32年度までであり、後期計画も見据えながらまちづくりの検討をしていくことになり、人口減少の中、色々な施策を

しながら、今住んでいる場所での満足感や愛着を持てるようにすることが重要になってくると考えている。何を優先的に進めていくか、市民の皆さんと話し合うことが必要なので、今後とも様々な分野でご意見をお寄せいただきたい。

10 担 当 課 市長公室政策企画課